

2025（令和7）年度埼玉県・オハイオ州スカラシップ

9月レポート「待ちに待ったスタート」

令和7年度奨学生 田中碧

みなさま、はじめまして。令和7年度埼玉県・オハイオ州スカラシップ奨学生としてフィンドレー大学に留学しております、田中碧と申します。これから埼玉県とオハイオ州の架け橋として役目を全うできるよう努めてまいります。みなさまにもこのレポートを通し異文化を楽しんでいただければ幸いです。

また、今年は情勢の影響でビザの取得など苦戦することが多くありましたが、出発に際してフィンドレー大学の川村先生、埼玉県国際課の方々をはじめ多くの方々にご尽力いただきました。改めてお礼申し上げます。

○オハイオ州・フィンドレー大学のキャンパスに関して

まず大学に到着して驚いたことは、大学の敷地がとても広いことです。職員の方によるとアメリカの中ではそこまで広くないとのことでしたが、構内には講義に使われる建物のほか、数多くの学生寮やアパート、ハウスがあり、一つの街のような雰囲気です。私は5人の学生が住むハウスで暮らしていますが、そこから講義棟までは近いところでも歩いて5分ほどかかります。また、大きなジムや各種スポーツのコートがあり、運動も活発に行うことができます。

このように広い敷地のため、構内を車で移動する学生も多くいます。大学のカラーであるオレンジと黒を使った装飾があらゆる場所にあったり、リスやウサギ、猫に遭遇したりと、構内を歩いていると楽しい発見がたくさんあります。電線が少なく景色もきれいなので、すでにキャンパスの雰囲気をとても気に入っています。



○学校生活・授業に関して

冒頭にもあるように、ビザの取得に時間がかかった影響で、私は正規の授業開始日から

2週間ほど遅れて参加しました。オリエンテーションにも参加ができなかったため、友達ができるか、勉強についていけるかなど多くの不安がありました。たくさんのあたたかい人たちに助けてもらいながら毎日を過ごすことができています。

私は現地の学生に混ざって受ける学部の授業3つに加え、留学生向けの英語の授業、日本文化を現地の子どもたちに伝える Genki Kids、そして Choir(合唱)の計6つの授業を受けています。各授業が週に複数回あるため、合わせて13コマの授業を一週間に受けています。それぞれの内容については来月のレポートでお伝えします。

授業は日本と比べよりリラックスした雰囲気で行われている印象です。学部の授業はネイティブの英語話者に囲まれて受けるため、苦戦することも多くありますが、積極性をもって何事もトライしてみることが大切だと感じる日々です。生徒が発言をする機会も多く、間違いを恐れず主体的に参加する姿にはとても背中を押されます。

食生活に関しては、学内にあるレストランをあらかじめ選んだミールプランに応じて利用することができます。ここはビュッフェ形式のレストランで、毎日違った食事を楽しめます。他にもカフェや売店があり、Derrick Dollars という学内独自の通貨を使って買い物ができます。画像は先日カフェにて行われていたアサイーボウルを自由に盛り付けられるイベントの際のものです。何を食べようかと迷うことも、毎日の楽しみの一つです。



○さまざまなイベント

フィンドレーでは、大学や地域主催の遊び心あふれるイベントが多数行われています。9



月初旬には“Kake Festival”というフィンドレー大学生が日本文化を体験するイベントが行われ、私も日本文化を紹介する側のスタッフとして参加しました。私が携わったのは「ちぎり絵」で、あらかじめ絵柄が描かれた台紙に好きな色の紙を貼りつけ作品を完成させます。想像よりも多くの学生が来場し、中にはもう一枚作りたいと言ってくれた人もいました。この画像内の作品は、大きな紙

にピンクの紙を貼りつけ、みんなで桜の木を完成させようというものです。留學生活が始まって間もない時期でしたが、早速文化交流の楽しさを感じられた良い時間でした。

とある週末には、大学から車で 15 分ほどの場所で行われた the Black Swamp Arts Festival に参加しました。ここでは手作りの工芸品や食べ物などの屋台が出ており、音楽



のステージを楽しむこともできました。道路にはチョークアートがありとても綺麗でした。

他にも、大学にバンドの方々が来校し屋外コンサートを開いたり、そこで無料でぬいぐるみをもらえたりなど、

常にあらゆるイベントで盛り上がっています。大学のメールではこれらのイベントが頻繁に告知され、さらに現地の仲間たちが車で一緒に行こうなどと誘ってくれるため、みんなで楽しもうという雰囲気が強く伝わってきます。こうした気分転換のおかげで勉強もより一層頑張ろうという気持ちが湧いてきます。



長い間埼玉県で暮らしてきた私にとって、この一か月間はとても刺激的なものでした。今後も周りの人と協力しながら、学びの多い時間を過ごせるよう頑張ろうと思います。



本プログラムやフィンドレーでの生活に関して何か気になることがございましたら、tanakam1@findlay.edu までお気軽にご連絡ください。少しでも皆様のお力になることができれば幸いです。